

製品名: NFκB-p100 (リン酸化 Ser869) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05091

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:20-1:50
分子量	

抗原情報

遺伝子名	NFKB2 NFKB2; LYT10; Nuclear factor NF-kappa-B p100 subunit; DNA-binding factor KBF2; H2TF1;
別名	Lymphocyte translocation chromosome 10 protein; Nuclear factor of kappa light polypeptide gene enhancer in B-cells 2; Oncogene Lyt-10; Lyt10
遺伝子 ID	4791.0
SwissProt ID	Q00653
免疫原	抗血清は、Ser869 のリン酸化部位周辺のヒト NF-κB p100/p52 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 836-885

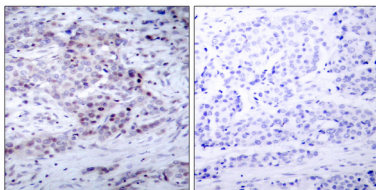
背景

核因子κBサブユニット2 (NFκB2) ホモサピエンス この遺伝子は、転写因子複合体核因子κB (NFκB) のサブユニットをコードしています。NFκB複合体は多くの細胞型で発現しており、炎症や免疫機能に関わる遺伝子の中心的な活性化因子として機能します。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、その二量体形成パートナーに応じて、転写活性化因子としても転写抑制因子としても機能します。p100完全長タンパク質は、翻訳時にp52活性型に変換されます。この遺伝子座の染色体再編成と転座は、B細胞リンパ腫で観察されており、そのいくつかは融合タンパク質の形成につながる可能性があります。この遺伝子には18番染色体上に偽遺伝子があります。選択的スプライシングによって、複数の転写バリエーションが生じます。[RefSeq提供、2013年12月]、疾患：B細胞性非ホジキンリンパ腫 (B-NHL) の症例において、NFκB2に関連する染色体異常が認められました。IGHA1との転座t(10;14)(q24;q32)。結果として生じるがん遺伝子はLyt-10Cα変異体とも呼ばれます。、疾患：皮膚T細胞白血病 (C-TCL) 細胞株において、NFκB2に関連する染色体異常が認められました。

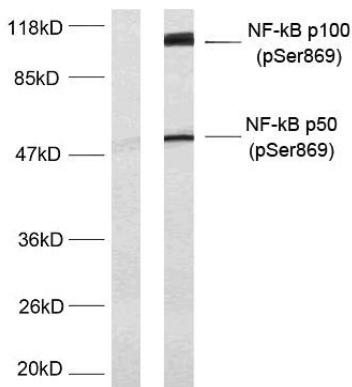
研究分野

B細胞受容体; 幹細胞経路; MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; Akt_PKB; NF_kappaB; タンパク質アセチル化

画像データ



NF-κB p100/p52 (リン酸化 Ser869) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



TNF-α 処理した MDA-MB-435 細胞のライセートを NF-κB p100/p52 (リン酸化 Ser869) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。左のレーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。